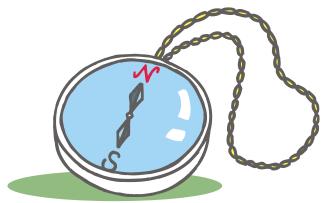


羅針盤



第 5 号

令和6年5月20日（月）

◆ 「時間を大切にする」

今年度の入学式で、新入生の皆さんに最後にお話した充実した学校生活を送るために大切にしてほしいことの三つ目は、「時間を大切にする」ということでした。時間というものは、誰にとっても全く平等に与えられているものです。生徒の皆さんだけに限ることなく、誰もが等しく二十四時間という一日を過ごしています。中学校での学校生活は三年間。この三年間は、限られた時間であり、この限られた時間をどのように使うかは、生徒の皆さん一人ひとりにゆだねられているものです。今年度も、四月からスタートして、気がつけば早くも五月の中旬です。一学期が始まり、一ヶ月以上がすでに経過したわけです。学校生活の基本は「授業」であることは、生徒の皆さんもよく承知していることであり、「時間を大切にする」ということは、如何にして限られた授業時間の中で、できるだけ多くのことを学び取り、集中力を発揮して、自らの持てる能力を高めていくうとすることができるのかといったことに、かかっているのではないでしょうか。自らの能力を高める努力を続けること、それは、ただ何気なく時間を過ごすのではなく、日々の充実した学校生活とともに、限られている時間の有効的な活用といったものに意識的に取り組む必要があるはずです。限られた時間を有効に活用するためには、優先順位を決めてから行動を起こし、身の回りの整理整頓を日頃から心掛け、生活リズムを習慣化しておくことが必要なことのはずです。また、ネガティブに考える時間を減らして、常にポジティブ思考で物事に取り掛かることが大事なことで、オンとオフを切り替えて行動できることも大切なことです。そして、何よりも時間を大切に使うことができる人は、相手のことも自分のことも大切にできる人のはずです。時間を守らないことや、無駄にすることが、時には大きな信用問題にもつながります。時間を大切にすることは、相手に対する思いやりともいえるでしょう。そういった、時間を大切にできる人としての成長を期待しています。



◆ 「一分の遅刻」という大罪

「一分の遅刻」と「一時間の遅刻」では、どちらの方が罪深いと生徒のさんは考えますか。「一時間の遅刻」の場合は、その原因として考えられるのは、その大半が交通事故や本人にとっては思いもよらなかった事態など、あらかじめ想定するのは難しかった状況に出会ってしまったことが原因となっていることが多いように思います。遅刻をしない方が良いことであることは、生徒の皆さんにもよくわかっていることでしょう。それでもやむ



にやまれぬ事情が起こるのも、日常の中では当然のことです。それよりも、一方、「一分の遅刻」の場合はどうでしょうか。本人のちょっとした気のゆるみが原因であって、努力次第では十分に時間に遅れるようなことがなかったということが考えられるはずです。約束をして時間を決めていたなら、なおさらのことです。相手のことを軽く見ていた証拠と受け取られ、大きく「信用」を失ってしまうことにもつながります。相手のことよりも、自分の都合を優先したことで起こってしまうのが「一分の遅刻」と言えるのではないか。「時間を見守る」という意識を大切にし、日々の学校生活を有意義に過ごしてもらいたいものです。

